

事業報告書

2021年度（令和3年度）

2021年（令和3年）4月 1日から

2022年（令和4年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリズ学園

2021年度事業報告書

生徒・児童・園児数の推移について、2021年度当初は、高等学校1,213名、中学校432名、小学校27名、エデュケア部門1,074名（放課後児童クラブ4ヶ所353名を除き）、合計2,746名（5月1日調査）。それが年度末には、高等学校1,175名、中学校429名、小学校27名、エデュケア部門1,071名、合計2,702名。そして2022年度は、高等学校1,200名、中学校420名、小学校13名、エデュケア部門1,043名（放課後児童クラブ4ヶ所374名を除き）、合計2,676名でのスタートとなりました。

本県においても、少子化・人口減少、併せて「南北格差」の拡大はいよいよ深刻となってきており、本学園への影響も大きくなってきました。人口減少による市場の縮減、長期化する「コロナ禍」の影響も懸念されます。さらには「ポストコロナ」について、「元には戻らない」「景色が変わる」などと言われます。間違いなく、世界が、日本が、そして教育・学校が大きな転換期を迎えています。

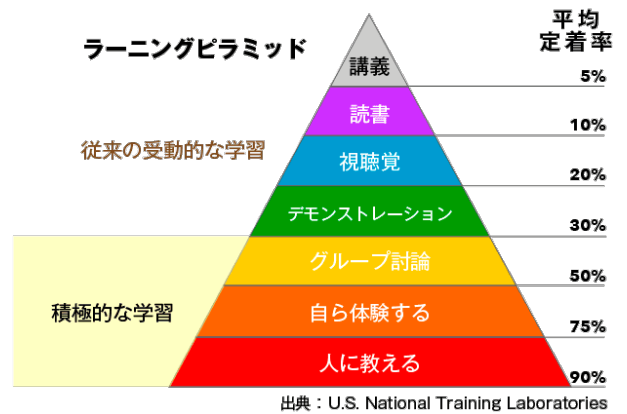
転換期には、自分で考え、仲間と協働する力が求められます。従来型の学習スタイルは、効率が悪いだけでなく（資料①）、時代の要請に答えられないのです。抜本的な教育改革が求められています。

にもかかわらず、求められる教育、創り上げるべき学校の姿について、しっかり内外の情勢を分析し、未来を見据え、歴史や伝統を踏まえた議論・検討がこの1年、積み上げられたかという点、各校園によって温度差はありますが、総じて心許ないと言わざるを得ません。

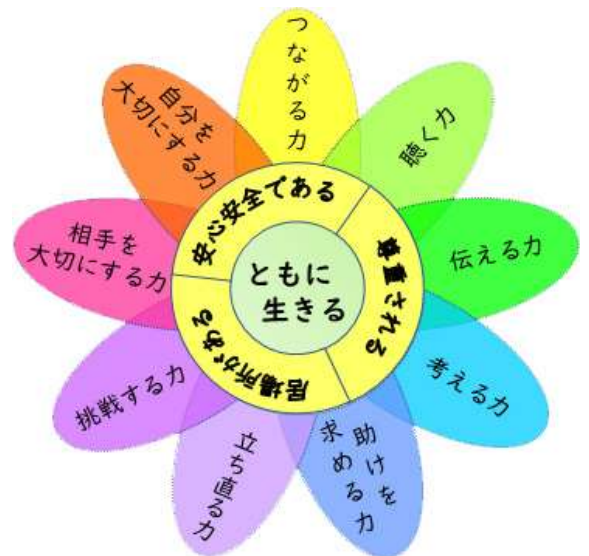
2022年11月3日に学園創立100周年記念式を開催し、「ヴォーリズムらい構想」マスタープランを公表します。「ヴォーリズムらい構想」は学園の中期展望ですから、何より中高やエデュケア部門（こども園・保育園等）の教育・保育展望策定が軸であるべきです。常任理事会では、その議論・検討のキーワードとして、次の4点を、俎上に上げています。

- ①いのちを大切にできる教育（資料②）
- ②リベラルアーツ教育
- ③「オン・キャンパス」「オンライン」「ハンズオン」
- ④「グローバルSDGs人財」の育成

2021年度の事業の到達点の上に立って、急ピッチで全学的な議論・検討を深めなければなりません。



資料①



資料②

理事長 藤澤俊樹

I. 学校法人の概要

本法人は「イエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造性に富む人、知性豊かな国際人を育成すること」を目的としております。

2021年度における本法人の概要は、以下のとおりです。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日課程 普通科・国際コミュニケーション科
近江兄弟社中学校
近江兄弟社小学校
近江兄弟社ひかり園
もりの風こども園
そらの鳥こども園
金田東保育園（本園・分園）
安土保育園（本園・分園）
ふるたか虹のはし保育園
安土こどもの家（指定管理）
守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）（指定管理）

2. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡YMCA会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道YMCA設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。
吉田悦蔵著『近江の兄弟ヴォーリズ等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与される。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部。
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林こどもの家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。清友園幼稚園、大林こどもの家、近江兄弟社女学校などをまとめて近江兄弟社学園と称し、檜山嘉蔵が学園長となる。

戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。

- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したのが、反対運動で中止。希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、理事長、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。学園長、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリス記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制、92年から4学級制化。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリス記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1996年 シャロン館建設（現高校エクステンションセンター）
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グランドデザイン」策定、17年終了。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。近江兄弟社こどもセンター設立。
- 2004年 エンジェル保育園開園。
- 2007年 星のひかり保育園開園。学園本館建設、5階にヴォーリス平和礼拝堂設置。第1回「いのちと平和の集い」（以後、毎年開催）。学園宗教センター開設。
- 2008年 金田東保育所運営開始。
- 2009年 「ヴォーリス展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 安土保育園運営開始。安土こどもの家指定管理者として運営開始。新希望館建設、ICC発足、翌年、高校国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 守山市にもりの風こども園開園。浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2013年 近江兄弟社ひかり園運営開始。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリス没後50年記念行事「ヴォーリスメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。
「ヴォーリス建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリス学園」に変更（以後、理事長・池田健夫、藤澤俊樹。学園長・道城献一、池田健夫）。
- 2016年 弓道場移転。第10回「いのちと平和の集い」（以後、隔年開催）。18年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）。

- 2017年 東近江市にそらの鳥こども園開園。メインアリーナ竣工。サブアリーナ改修。
 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリズ・エデュケアセンター」に変更。
 ヴォーリズ・コーチングアカデミー開設。
 2019年 「第一次フロンティアプロジェクト」から「第二次フロンティアプロジェクト」へ
 ヴォーリズみらい構想準備会を立ち上げ、委員会スタート（1月23日）。
 高校国際コミュニケーション科定員増（2学級）。守山市にふるたか虹のはし保育
 園開園。一柳満喜子没50周年記念事業実施（8月～11月）。
 学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結。
 2020年 「ヴォーリズみらい構想」策定。COVID-19による休校（4～5月）。
 2021年 浅小井校地グラウンドを人工芝化。宗教センターを「ヴォーリズ・キリスト教平和
 センター」に改称。
 2022年 創立100周年を迎える。

3. 設置する学校等の定員および生徒数の状況（2021年5月1日現在）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,155名	1,213名
中学校	456名	432名
小学校	(432名)	27名
こども園	550名	570名
保育園	474名	504名
学 童	370名	353名
合 計	3,437名	3,099名

4. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2021年5月1日現在）

理 事 長 藤澤俊樹
 常任理事 池田健夫 小野春男 松田 保 安川千穂 池田健一 中島 薫
 小森康三 奥 達夫 山崎 直
 理 事 山村 徹 上野昌志 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕
 監 事 小西 勉 川森勇次
 評議員 43名

②教職員数（2021年5月1日現在）

法人本部	理事長、学園長、学園長代行、副学園長、事務長、参与、事務次 長2、専任職員7、エデュケアセンター専任職員7					
	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	77	21	1	24
中学校	1	教頭含2	26	9	0	10
小学校	1	教 頭1	4	4	0	6
こども園 (3)	園長3	副園長3	81	0	5	50
保育園 (3)	園長3	3	0	0	85	61
学 童 (4)	0	0	0	0	10	34

Ⅱ. 各校園事業報告

1. 高等学校

2022年度県内私立高校入試で定員を確保したのは県内(全日制課程)10校中、4校となりました。前年度より滋賀県下で中3生が約540名増加しましたが、本校に近い地域の公立普通科高校で定員増がなされ、その影響が併願受験生の戻り数の減少として表れました。専願での入学者数は増加したものの、併願入学者数の減少と公立2次試験での流出の影響を受け、総定員390名に対し383名の入学者となり、7名の定員割れとなりました。

クラス別では、国際コミュニケーションクラス(ICC)が定員70名に対し52名の入学となり、定員を下回りました。新型コロナウイルス感染症の問題が、留学や国際交流に対する不安材料となり、ICCの生徒募集にも影響しました。

単位制ヒューマンネイチャークラス(HNC)は、ほぼ定員を充足する入学者を得ました。特に最終の第3回体験学習会では倍率の高い入試となりました。

アーツサイエンスクラス(ASC)・グローバルクラス(GLC)ではクラブ活動の活性化により、学業とクラブ活動の両立を目指そうとする生徒が増加しましたが、専願・併願共にGクラスの受験生が大きく減少しました。

教育活動では、2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全学的な休校措置はなかったものの、感染拡大状況に応じてクラス閉鎖や学年閉鎖を行わざるを得ませんでした。様々な教育活動に対する制限は教師のみならず、生徒に大きなストレスを与えました。コロナによる休校や欠席者への対応としては、Webによる授業の配信等を行いました。日常の授業でのiPad利用も随分と進み、教育活動に活かされました。ただICT導入に伴う教員、特に担任への負担は極めて大きなものとなっています。

学園祭体育の部は、予定通りドラゴンハットで行いましたが、事前準備での密を防ぐために「団パフォーマンス」は2年連続の中止としました。生徒会や運動クラブを中心に運営され盛り上がりましたが、次年度以降は「団パフォーマンス」を一度も経験したことのない生徒集団となります。

学園祭文化の部では、文化部発表と共に、本物の芸術文化に触れる機会としてプロによる「能観劇」と「アンサンブル鑑賞」を行いました。また昼休みには、地元飲食店支援もかねた中庭マルシェを実施し、今後の文化の部の在り方に一石を投じる事となりました。

高校2年生の海外研修旅行は、2年連続中止としましたが、ASCは新島学園高校・軽井沢方面へ、GLCは九州学院高校・熊本方面へ、HNCは広島方面へ2泊3日の研修旅行を行いました。キリスト教学校教育同盟校であり、本校と共に同志社大学キリスト教教育ネットワークに所属する新島学園高校と九州学院高校との交流に取り組めたことは、今後、日常における高校間交流としての可能性に繋がる取り組みとなりました。ICCは3月に時期をずらし北海道への研修旅行を計画しましたが、コロナ感染の再拡大のため中止し、京都・三重方面への2日間の校外学習を行いました。

2021年度は各クラスの特色ある取り組みが充実しました。指導部長を中心に、前年度までの到達点に改善を加え、各クラスの教育目標に即した成果が見られました。また3年間を通じた活動の集大成として発表の機会が設けられたり、レポート集が作成されて成果の蓄積が進んでいます。学年の枠を超えた取り組みなどを通して、クラスの縦の繋がりが出来たことにより、クラスへの帰属意識が高まりました。

iPadの導入や授業改革の結果、多くの授業でアクティブラーニングが実践され、主体的に学ぶ姿勢を育み、仲間と協働して探求する力を養う授業の実践が多く見られます。しかし生徒授業アンケートにおいては、授業に対する満足度は前年度と比して低い結果となりました。特に授業をきっかけに興味関心を高め、さらに学習に取り組もうとする姿勢の育成については大きな課題であり、家庭学習に結びついていない現状があります。

教科型エクステンションプログラムについては、土曜講座への参加者がクラブ活動との兼ね合いもあり、減少しています。また平日の放課後に本校教員が行っている放課後塾については、熱心に学習に取り組んでいる生徒の姿が多くありました。

教科外エクステンションプログラム活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け制限されましたが、生徒会やインターアクトクラブ等を中心に積極的に取り組みました。

進路状況では、四年制大学への進学率が78.7%(2021年度81.8%)、合格者総数も395件(2021年度424件)、短期大学進学率3.9%、専門学校12.9%、就職0.3%、その他4.2%となり、前年度からの大きな変化はありませんでした。依然として本校生の四年制大学への志向は高く推移しています。指定校・連携校推薦による合格者数は166名(2021年度162名)、またAO入試や公募推薦入試でも合格が増加しています。3月に進路を決定する生徒もあり、大学の募集定員厳格化がやや緩やかになった影響が出ていると予測されます。

生徒異動では、2021年度は39名の転退学者がありました。不登校傾向の生徒の通信制高校への転学や、単位制の年度末における長期欠席者の転退学者数が相当数を占めます。また2021年度は担任等への相談がないまま、通信制高校への転学を決定する事案があり混乱を生じました。

クラブ活動では、県のクラブ指導ガイドラインを参考に本校のガイドラインを作成し、感染防止に努めながらほぼ通常通りの活動を行いました。多くの大会が入場者を限定するなどの制限を加えながらも再開され、本校生の活躍がありました。秋季総体では全種目総合で男子が5位、女子が4位の成績を残しました。近畿大会や全国大会に出場したクラブも多くあり、全国大会出場クラブは女子バレー・女子バスケット・男子ハンドボール・陸上・スキー・スケート・水泳(飛び込み)・英語ディベートの8クラブ、近畿大会出場は女子バレー・女子バスケット・男子ハンドボール・バドミントン(男女)・弓道(男女)・男子柔道・水泳(男女)・卓球(男女)・陸上(男女)・新体操・スキー・馬術の12クラブになりました。

2021年11月には「高等学校の部活動指導方針」を作成、ホームページにも掲載し、近江兄弟社高校の目指す部活動の在り方を示しました。

校務運営では、高校運営委員会で決定した内容を教職員会議で合意して行動するという形が定着し、スピード感を持った運営ができました。またクラス(ICC・ASC・GLC・HNC)を優先した縦型校務運営は、各クラスの前年度までの成果を継承する点で大きな効果が見られました。しかし新型コロナウイルス感染症による制限や組織の拡大、校内グループウェアの導入に伴い、教員間の直接的なコミュニケーション不足を要因とする問題が生じました。

2022年度は学園創立100周年の節目の時となります。高校生が学園最上位の集団として、主体的に100周年記念事業に取り組み、これを学びのチャンスにしたいと思えます。

「いのちを大切に教育」をより具現化し、「いのちの花」に示された「ともに生きる」力を育む教育に全力を尽くし、リベラルアーツの学びの発展を目指します。

2. 中学校

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な教育活動が制限を受けました。しかし8月27日、滋賀県下への緊急事態宣言発令後においては、2020年度の経験を生かし、約1ヶ月間、オンライン、オンデマンド、分散登校等を組み合わせ、生徒たちの状況にも配慮し、教育活動を止めないよう工夫をして取り組むことができました。この間このような取り組みが出来たのはこれまでのICT機器の活用実践の積み重ねでした。2020年度の休校期間での経験、授業や行事等でのICT機器活用や教師研修、情報交換を重ねてきたことにより機器の有効活用ができたと考えます。また1・2年生は一人1台のタブレット端末を持つ状況でもあり、3年生においても学校所有のタブレット端末を貸し出すことで全員とつながる体制がとれたことも大きな要因でした。

2021年度は「英語教育」「ICT教育」「探究学習」を教育の柱として、さらに「中学校教育改革」の推進に取り組みました。

「英語教育」では2022年度より週当たりの授業時間数を6時間とするカリキュラム編成の検討を進めました。英語学習においては言語習得の流れを大切にし、英語5技能を習得するラウンドシステムを先行して導入し研究を進めてきました。導入2年目の2年生においては、GTEC(英語4技能テスト)の結果においてReadingスコア、特に「英文概要把握問題」において全国平均を大幅に上回る結果が出るなど、成果が現れてきています。

ICT教育においては、どの授業においてもタブレット端末の活用の仕方が定着してきており、より効果的に活用することが出来ました。また研修や事例検討などの情報共有の機会を適宜持ち教職員のスキルアップにも努めました。

「新学習指導要領」の実施においては各教科「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を意識した授業展開、探究型学習の研究に取り組みました。また2022年度1年生から、LHRを活用して、また探究ウイークを設け取り組む、「近江兄弟社中学校探究学習」の実施に向け検討チームを中心に検討を進めました。

他校園との連携の取り組みとして、近江兄弟社高等学校への体験入学なども実施し、各クラスの特徴や魅力についても伝える機会を持ちました。今年度は全体として内部進学生割合が増加しました。また近江兄弟社小学校との連携では、児童たちに市井校地で中学校教員が理科やプログラミングの授業を行うことができました。

2022年度生徒募集は、感染症対策をとり、制限の中での活動で、生徒たちの姿を見てもらう機会がほとんどない状況でした。オープンキャンパス参加者数では497名（前年度421名）と増加しましたが、模擬試験の参加者数は334名（前年度329名）と大きな増加は見られませんでした。今年度も専願重視の方針を持ち自己推薦での受験を目指して取り組んでもらえるよう募集活動を進めました。結果としてS型の受験者数が83名（昨年度78名）、A型の受験者数が20名（昨年度37名）とA型の受験者数が減少しており、自己推薦の受験者数も全体として減少となりました。

しかし、今年度募集において英語教育の充実や自己推薦の要件としても英検取得を挙げるなど英語教育に力を入れている本校の特徴を強くアピールしました。そのため今年度、英検取得している受験者は、3級以上5名（昨年度0）、4級20名（昨年度6名）、5級9名（昨年度18名）と大幅に増えました。

今年度の募集活動においては、オープンキャンパス参加者数の増加が受験者数の増加に結びついておらず、2022年度の募集活動の結果、入学生は136名と募集定員を充足することはできませんでした。このような状況を危機感を持って受け止める必要があると考えています。

3. 小学校

2021年度、児童数は5年生13名、6年生14名、合わせて27名となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大について、まだまだ予断を許さない状況の下、新しい生活様式の中での少し窮屈な学校生活を強いられることとなりましたが、元気に健気に学校生活を送る子どもたちの姿に、私たち教職員も励まされました。

学校行事については、中止するのではなく、感染拡大の対策を十分講じつつできる限り実施する方向で取り組んでいくこととしました。

「安土サイクリング」「花の日礼拝」「コパンでの水泳授業」は予定通り実施しました。6年生の「琵琶湖一周サイクリング」は、天候の関係で、2日目だけの走行となりましたが、見事全員が走破することができました。

9月開催予定の「運動会」は10月に延期し、参加者とプログラムを縮小しての実施となりましたが、2021年秋完成したばかりの色鮮やかな緑の人工芝グラウンドで、子どもたちの躍動する姿を披露することができました。

10月には、一日を市井キャンパスで過ごし、ハイド館、教育会館、ヴォーリズ記念館、旧八幡郵便局、池田町洋館街(ウォーターハウス、ダブルハウス、吉田邸)などのヴォーリズ建築をめぐり、ハイド館長やヴォーリズ記念館長のお話もお聞きしながら、秋晴れの下、良き学びの機会となりました。

12月には「クリスマス礼拝」を、短縮プログラムではありましたが、保護者の皆様、YMCAの学童の皆様の参加を得て、イエス様のご降誕をお祝いする時をもつことができました。一人ひとりがペンライトを持って入場する「燭火入場」、影絵と朗読と聖歌、厳粛で幻想的な雰囲気の中で、小学校の「クリスマス礼拝」を守ることができました。

また、理科や情報の連携授業の実施、本校6年生児童・保護者対象の近江兄弟社中学校の体験授業や学校説明会、模擬試験の解説などを実施していただき、中学校との連携を深めることができました。

5年生の鈴鹿方面への見学旅行は、県内「フォレスト・アドベンチャー栗東」へ行き先と内容を変更して実施しました。また5年生の「フローティングスクール」は、県内すべての航海が一日プログ

ラムに変更になり、本校は2月に八幡小学校・島小学校と同船の航海となりました。

6年生の奈良方面への見学旅行は中止とし、修学旅行は9月予定を3月に延期し、県内での二日間の日帰り行程に変更して実施しました。一日目は、長浜ヤンマーミュージアムでのVR体験、黒壁スクエアの散策、イチゴ狩り体験を楽しみました。二日目は、グランスノー奥伊吹でのスキー実習教室を実施し、仲間とともに小学校生活最後の良き思い出のページをつくることができました。

100周年記念事業の一環として、10月の「写真プログラム学習」で子どもたちが撮った写真一人1作品と、市井キャンパスでのヴォーリス建築の撮影会で撮った作品のうち特選に選出された10作品を、ハイド館2階にて展示いたしました。

2023年3月小学校閉校に向けての取り組みを検討するため、10月に小学校閉校記念事業実行委員会を発足させました。その成果として、11月には、運動会の団体演技をリメイクし、ドローンによる上空からの映像を撮影し、YouTubeチャンネルにて動画を配信することができました。

これからの一つひとつの取り組みが、小学校最後の取り組みになります。また、今年度は学園100周年の節目の年であります。そのことを念頭に置きつつ、それにふさわしい取り組みになるよう心を込めて取り組んでいきたいと思っております。

4. ヴォーリス・エデュケアセンター (Vories EduCare Center)

2021年度は全園においてコロナ感染対策を徹底しながら、子どもの育ちを促す工夫をし、運営に努めました。以下に各園の報告を記します。

○近江兄弟社ひかり園

施設整備事業として、幼児棟園舎の外壁塗装工事、園舎に隣接する第2園庭「ぶんえもん広場」の芝生化を行いました。保育の質の向上を目指し園内研修を重ね、遊具や教具、カリキュラムを見直し実践に結びました。園内外の整備に伴い子ども達の活動が充実した一年となりました。

○もりの風こども園

年度当初予定していた園庭整備は一年延期し2022年度に繰り越しました。ZOOMによる会議や研修への参加、職員の業務軽減を図るため園舎内のWi-Fi工事を実施しました。これらの整備により仕事の効率化や学びに対するICTの活用が進みました。また、保育室床のコーティングを実施しました。抗菌効果もありコロナ禍において衛生面での整備にもつながりました。

○そらの鳥こども園

1号認定児の定員が充足し、そのなかでも預かり保育利用を希望する方が多くみられました。クスノキの樹勢回復工事を東近江市との協同で実施することができました。一方、保育士不足が深刻で、紹介業者も利用しつつ人材を確保した一年でした。

○金田東保育園

本園の駐車場の整備を行いました。また園庭、築山等の整備をし、子どもたちが伸び伸びと安心して遊べる環境を整えました。職員のスキルアップになる研修への取り組みは、新型コロナウイルス感染症により外部研修への参加が減り計画通りに進みませんでした。働き方、業務内容、専門分野のスキルアップを研究課題に掲げ、職員会議の中で研修を行いました。

○安土保育園

安土保育園新園舎建築に向けて行政と協議しながら保育所等整備交付金申請、設計監理業務委託一般競争入札に向けての準備に努めました。また、園児の課題、職員の資質向上などの課題に視点をあて、新型コロナウイルス感染拡大の中で、子どもたち一人ひとりにとって、貴重な経験や学び合える保育園生活の充実を目指し研修に取り組みました。『with コロナ』の観点から「できない」ではなく「どうすればできるのか」「できることは何か」に視点を換え、保育内容の変更を検討するなど、職員が一丸となり知恵や工夫を出し合い安心・安全、資質向上に努めました。

○ふるたか虹のはし保育園

民営化より3年が経過し、保育内容・保育環境の充実に努めました。ヴォーリス学園の方針を伝えることを大切に、学園に対する保護者の理解が進みました。また、行事の引き継ぎにおいては、課題であったリズム運動の充実を目指し、講師を招き実技研修を行い、理論から指導法までを学び、職員の指導力向上を図りました。絵本活動の充実のために、講師を招いての研修、BBC

の絵本読み聞かせ事業活用、守山図書館からの読み聞かせボランティアの派遣など、新型コロナウイルス感染症予防を講じながら、積極的に絵本活動の充実を計りました。

○安土こどもの家（安土学童ひまわりクラブ）

今年度定員 90 名のところ 95 名の児童が入所しました。一日いちにちを子どもたちと支援員が協力し合い過ごすことが出来ました。長期休暇期間には例年と違った行事にも取り組み、ひまわりクラブとして成長できた一年でした。

○守山（物部・小津・玉津）児童クラブ室

常勤指導員の増員を図り、コロナ禍において安心して児童が過ごせる居場所づくりに努めました。

Ⅲ. 財務報告（2021 年度財務状況概要）

(1)資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

①資金収入

(単位千円)

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
学生生徒納付金収入	1,238,645	1,206,703	1,151,434	1,176,403	1,191,402
手数料収入	32,247	32,527	32,921	32,613	32,975
寄付金収入	21,133	48,803	31,839	19,203	21,130
補助金収入	1,397,403	1,756,736	1,607,069	1,711,254	1,691,171
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	112,018	109,236	119,056	132,337	138,409
受取利息・配当金収入	17	40	176	221	256
雑収入	81,736	76,551	42,455	50,956	131,538
借入金等収入	17,000	582,400	0	0	60,000
前受金収入	99,590	101,880	110,180	106,950	100,140
その他の収入	577,637	214,343	478,128	153,126	154,215
資金収入調整勘定	△315,567	△568,627	△222,374	△254,270	△333,184
前年度繰越支払資金	607,762	631,552	850,215	907,831	1,040,720
収入の部合計	3,869,623	4,192,147	4,201,104	4,036,628	4,228,774

②資金支出

(単位千円)

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
人件費支出	1,869,574	1,904,102	1,995,722	2,063,333	2,103,756
経費支出	692,645	697,968	664,161	668,279	681,644
借入金利息支出	14,189	13,566	12,582	10,580	10,054
借入金返済支出	300,763	83,316	425,269	120,226	102,496
施設関係支出	228,529	577,371	28,954	17,186	89,344
設備関係支出	27,621	99,309	17,728	25,231	17,499
資産運用支出	100,000	50,000	50,000	50,000	50,000
その他の支出	86,644	90,624	173,777	117,306	88,815
資金支出調整勘定	△81,897	△174,327	△74,924	△76,236	△74,888
翌年度繰越支払資金	631,552	850,215	907,831	1,040,720	1,160,051
支出の部合計	3,869,623	4,192,147	4,201,104	4,036,628	4,228,774

(2)事業活動収支計算書

会計年度における、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収入	2,844,663	2,872,041	2,963,175	3,117,877	3,204,482
教育活動支出	2,821,107	2,861,533	2,958,987	3,026,743	3,070,226
教育活動収支差額	23,555	10,507	4,188	91,134	134,255
教育活動外収入	17	40	176	221	256
教育活動外支出	14,189	13,566	12,582	10,580	10,054
教育活動外収支差額	△14,172	△13,525	△12,406	△10,359	△9,797
経常収支差額	9,382	△3,017	△8,218	80,775	124,457
特別収支差額	39,116	382,958	23,248	8,074	△605
基本金組入前当年度収支差額	48,498	379,940	15,030	88,850	123,852
基本金組入額	△619,167	△191,757	△505,035	△204,711	△174,418
当年度収支差額	△570,668	188,183	△490,004	△115,861	△50,565

(3)貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。

(単位千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資産の部					
固定資産	5,657,799	6,149,004	5,955,698	5,756,170	5,625,289
有形固定資産	5,552,218	5,993,390	5,742,579	5,494,559	5,315,187
特定資産	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000
その他の固定資産	5,581	5,614	13,118	11,610	10,101
流動資産	898,243	1,372,868	1,086,164	1,235,433	1,431,163
資産の部合計	6,556,043	7,521,872	7,041,862	6,991,603	7,056,452
負債の部					
固定負債	1,259,020	1,426,546	1,301,054	1,196,293	1,137,929
流動負債	349,624	767,987	398,438	364,090	363,450
負債の部合計	1,608,645	2,194,534	1,699,493	1,560,383	1,501,379
純資産の部					
基本金	7,856,047	8,047,805	8,552,840	8,757,551	8,931,970
繰越収支差額	△2,908,650	△2,720,466	△3,210,471	△3,326,332	△3,376,897
純資産の部合計	4,947,397	5,327,338	5,342,369	5,431,219	5,555,072
負債及び純資産の部合計	6,556,043	7,521,872	7,041,862	6,991,603	7,056,452